

1. 大規模展示場の基本構想

本章では、愛知県が中部国際空港島に愛知県国際展示場を整備することとした背景・目的や、事業構想等について振り返りを行います。

(1)背景・経緯

- ・21世紀以降、経済成長の著しい中国やシンガポール等のアジア諸都市を中心に、大型の産業展示会、見本市及びコンベンションを開催できる大規模なMICE施設を整備する動きが加速しました。このような動きは、各地の都市圏・後背圏の経済発展に伴い、国内外のビジネスマッチングの場として、また、国内の製品やサービスの対外的なプレゼンテーションの場として、大規模でグローバルな催事開催のニーズが高まったことに対応するものです。
- ・我が国においても、2010年代以降、展示会や見本市を含むMICE産業の成長を見込み、東京、横浜、福岡など、全国各地で新たな展示場等のMICE施設を整備や増設を図る動きが進みました。
- ・こうした国内外の動きを踏まえ、2015年度、愛知県では「国際観光都市推進事業調査」において、国際観光都市としての当地域の魅力を高めていくため、技能五輪国際大会等の本県誘致を見据えたコンベンション施設や、フィギュアスケートを始めとした国際的なスポーツ大会が開催可能なアリーナ施設についての調査を実施しました。
- ・この調査を踏まえ、愛知県は同年度に「大規模展示場基本構想調査」を実施し、首都圏に並ぶ交流拠点としての地位向上を図り、新たな交流により、新産業の創出や既存産業の充実など本県の産業基盤の強化を進めるための大規模展示場の整備方針について検討を行ったうえで、「愛知県大規模展示場基本構想」を策定しました。
- ・二つの調査結果を受け、2016年2月3日、愛知県は「大規模展示場の整備について～首都圏に並ぶ交流拠点に向けて～」において、調査の結果及び今後の方針について公表し、本施設の整備が決定しました。具体的な公表内容は以下のとおりです。

「大規模展示場の整備について～首都圏に並ぶ交流拠点に向けて～」の概要

- 世界の総展示場面積は、欧州が最大であるが、アジアでも、中国を中心に、韓国などにおいて大規模展示場を新設・拡張する傾向がある。
- 東京オリンピック・パラリンピックの日本開催決定により国際的にも日本への注目が高まる一方で、首都圏の主要な展示場がメディアセンターや競技会場等として一定期間閉鎖され、展示場が不足する事態が想定される中、(一社)日本展示会協会からは、展示会の中止による社会経済への影響を危惧し、全展示会が例年通り開催できることを望む「公式声明文(平成27年11月16日付け)」が公表されている。
- 本県は、日本一の産業県として日本経済を支えリードしてきたところであるが、展示会や国際会議などMICEを取り巻く状況は、ハード・ソフトの両面で東京・大阪に比べ劣位となっている。
- 現在、展示会は東京ビッグサイトなど首都圏に集中しているが、今後、我が国の経済成長に伴って需要が拡大する見通しがあり、産業集積を有する本県においては新たな展示会の開催可能性がある。
- また、折しも、愛知県では「技能五輪国際大会」の2020年代初頭の開催等を検討しており、催事開催の受け皿となる大規模展示場の整備が求められているところである。
- 大規模展示場の整備により、2020年代初頭の技能五輪国際大会の誘致に向けて、第一歩を踏み出すことができる。本県への世界からの関心が高まっていく中、世界中から人を呼び込むことで、数多くのビジネスマッチングを生み出し、新たなイノベーションを引き起こす可能性を持つ当地域は、MICEの開催には最適地であると考えている。

<世界の展示場規模別ランキング>

順位	会場名	面積(万㎡)	国・都市	備考
1	ハノーバー国際見本市会場	46.6	ドイツ・ハノーバー	—
2	中国博覧会会展総合体	40.3	中国・上海	2015年開業
3	フランクフルト見本市会場	35.6	ドイツ・フランクフルト	—
4	フィエラ・ミラノ国際見本市会場	34.5	イタリア・ミラノ	—
5	中国出口商品交易会琶州展示館	33.8	中国・広州	2002年開業、2008年拡張

(以下、中国以外のアジアを抜粋)

28	インパクト	14	タイ・バンコク	2000年開業、2006年開業
48	シンガポール・エキスポ	10.9	シンガポール	1999年開業
50	キンテックス	10.8	韓国・高陽	2005年開業、2011年拡張

<アジアにおける展示会開催件数>

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
日本	528件	692	721	621	603	611	573	610	655
中国	3,800件	4,320	4,270	4,490	4,920	6,200	6,830	7,189	7,316
韓国	336件	353	354	409	422	479	553	—	—

(2)事業構想

- ・2015年12月に公表された「国際観光都市推進事業調査」の報告書において、本施設の基本コンセプトを「国内外の人々が集う国際交流拠点の形成」「新たなビジネスマッチングの実現による県内企業の活性化促進」「国際イベントの誘致による賑わいの創出」としました。
- ・これを踏まえ、2016年3月に策定された「愛知県大規模展示場基本構想」においては、本施設の整備コンセプトを「産業首都 愛知の新たな交流・イノベーション拠点の創造」とし、このコンセプトに基づき、以下の3つの整備方針が掲げられました。

整備コンセプト

産業首都 愛知の新たな交流・イノベーション拠点の創造

■MICEの開催による新たなビジネスマッチングの機会を創出

自動車・輸送機器や航空宇宙産業、ロボット産業をはじめとする愛知県・中部圏のものづくり産業をテーマとする大規模な展示会・見本市等の開催によって、新たなビジネスマッチングの機会を創出し、産業の高度化・活性化を推進する。

■企業や研究機関の誘致や、新たな交流によるイノベーションの創造

大規模展示場周辺において、ものづくり等に関わる企業や研究機関等の誘致を進めるとともに、大規模展示場で開催される催事(見本市・展示会、ビジネスミーティング等)において、内外の多様な企業との交流機会を創出することを通じて、ものづくりや新たなビジネスに関するイノベーションの創造を図る。

■セントレア周辺との相乗効果による国内外から人を呼び込む集客拠点

空港島内や周辺エリアに立地する宿泊施設、商業施設、エンターテインメント施設等と連携することによって、国内外から多くの人を呼び込み、にぎわいのあるまちづくりを展開する。

(3)建設地の選定

- ・建設候補地については、「国際観光都市推進事業調査」にて、名古屋エリア、尾張エリア、知多エリア、西三河エリア、東三河エリアの5地区が検討され、それぞれの地区について、「アクセス性」、「宿泊施設」、「周辺観光地」、「用地取得性」の4つの視点から評価が行われました。
- ・以上の調査の結果を踏まえ、「愛知県大規模展示場基本構想」において、「名古屋地区(名古屋駅から鉄道で30分圏内)」、「知多地区(中部国際空港の周辺)」、「西三河地区(豊田市や岡崎市を中心とする地域)」の3地区について、更なる検討を行いました。
- ・それぞれの地区について、「用地の確保」、「需要」、「広域交通アクセスの利便性」、「主催者の利便性確保」、「付帯施設の立地」、「周辺土地利用」の視点から評価が行われ、評価の結果、知多地区が最も望ましい建設候補地とされました。

知多地区(中部国際空港隣接地等)に立地することのメリット

交通アクセスの利便性

- ・中部国際空港の旅客ターミナルや名鉄空港線・中部国際空港駅に隣接しており、公共交通の利便性が高い。また、高規格道路にも接続しているため、広域的な交通アクセスも良好である。
- ・将来的にはリニア新幹線のターミナル駅である名古屋駅から名鉄の最速の特急電車であれば30分弱でアクセスが可能となり、国内外からのアクセス利便性がさらに向上する見込みである。

周辺施設の充実

- ・空港島内には複数のホテルが整備されており、対岸にはショッピングモール等の商業施設が立地しているため、展示場機能をサポートする宿泊や商業・にぎわいの機能が既に集積している。

産業集積と観光資源

- ・知多周辺は、自動車・輸送機器産業や航空宇宙産業等のものづくりに係る産業が集積しており、成長ポテンシャルが高い。
- ・また、知多半島には観光・集客資源が数多く立地しているため、将来的な発展が見込める地域である。

まちづくりの活性化

- ・大規模展示場での催事開催や集客強化を通じて、中部国際空港の活性化や空港島内・周辺エリアの施設立地・開発の促進を図ることができ、まちづくりの活性化に寄与する。

用地の確保と施設配置の自由度

- ・空港島内であれば用地の確保が容易であり、連続した展示空間として60,000㎡以上の施設整備が可能である。
- ・また、展示場やその他の機能のための将来的な拡張の余地も確保されている。

騒音・振動の影響

- ・空港島内であれば周辺住民への騒音・振動等の影響が少ないため、大音量を出すコンサートの開催をはじめ、多様な催事の開催が可能である。
- ・アクセスコントロールが可能なため、セキュリティ対策や防災対策もしやすい。

- ・建設候補地の検討を踏まえ、本施設の立地は愛知県常滑市沖の中部国際空港島南側、約280,000㎡の一部とされました。
- ・この立地は、中部国際空港(セントレア)の旅客ターミナルに直結しており、空港利用者が直接来場できるほか、鉄道や車、高速船などの交通手段も充実しているため、非常に高い交通アクセスの利便性を誇ります。また、セントレアの就航便数の増加により、さらなる国内外からの集客が見込まれています。さらに、今後の展示会需要の動向に応じて、約20,000～40,000㎡程度の展示場面積の拡張が可能な十分な敷

地が確保されており、国際交流拠点としての高いポテンシャルを有しています。

国際展示場の概要(計画時)

所在地	空港島(常滑市セントレア5丁目)
敷地面積	約28.7ha
竣工時期	平成16年、17年
用途地域	準工業地域・準防火地域
指定容積率/建坪率	300%/60%
臨港地区	指定なし
その他法規制	中部国際空港周辺における建物等の設置の制限 航空法高さ制限：水平表面45m
所有者	愛知県企業庁
交通アクセス	鉄道：名鉄中部国際空港駅から徒歩5分 名鉄名古屋駅から所要時間、運賃、本数 ミュースカイ：28分、1,230円 平日昼間：2本/1時間 特急：33分、870円 平日昼間：2本/1時間 道路：セントレア東ICから約1,000m 名古屋市内からの所要時間、高速料金 約40分、約2,000円 空路：空港ターミナルから徒歩5分 国内18都市81便 海外40都市359便 (2016年3月)
周辺施設	ホテル (空港島内)：セントレアホテル、東横INN、 コンフォートホテル (りんくう地区)：J-HOTEL RINKU 商業施設 (空港島内)：銀行、郵便局を含む、多数のレストラン、 ショップ (りんくう地区)：イオンモール常滑、コストコめんたい パークとこなめ

国際展示場の立地



【コラム① MICEを巡る近年の環境変化】

MICE業界は、コロナの流行により大きな影響を受け、特に、流行の前で開催形式や運営方法が大きく変化しました。流行に伴い、予定されていた多くのMICEがオンライン形式への移行や中止、延期を余儀なくされました。その後、徐々に感染防止ガイドラインの策定等により安全なMICEの再開に向けた取組が進められ、遠方から参加可能などの利点があることから、現在においても、オンラインと対面を併用したハイブリッド形式によるMICEの開催が定着しつつあります。

このように、オンラインの普及が進む一方で、コロナによる制限を受けたことにより、直接コミュニケーションがとれることや、実際の製品を見て選ぶことができることなど、MICEの対面開催ならではの価値も再認識されています。

今後は、AIによるバーチャルガイドやより臨場感を得ることができるVRの導入など、先端の技術を活用することで、オンライン会場のさらなる充実も期待できます。MICE産業の活性化のためには、オンラインと対面、双方の利点をうまく活用することで、来場者に対し、より利便性が高く充実した体験を提供していくことが重要になっていきます。

